

T

退院後も

T

つなぎます

A

あなたの

K

ところとからだ

12月15日号
地域連携室発行

今年も残すところ数日となりました。毎年のことですが1年って経つのが早いなあ~と思います。久々の新聞編集が12月で、なんだか嬉しいです。年末年始、忙しいですがウキウキもします。今月の内容は、そんなウキウキ気分をさらに盛り上げてくれそうな勢いのある院内の活動グループの紹介です！

頑張ってます！生活習慣病療養指導グループ

今月は、生活習慣病療養指導グループの一員として活躍なさっている臨床検査技師の佐渡和義主任にお話をうかがいました。

今日はお忙しいところ、ありがとうございます。早速ですが…

Q：生活習慣病療養指導グループというのは一言で言うとどのような活動を行っているのでしょうか？

A：生活習慣病、特に糖尿病患者様の治療と指導を目的としたグループです。もちろん、最近よく言われるメタボリックシンドロームも視野に入れています。

Q：では、このグループはいつから活動が始まったのでしょうか？

A：それは、平成11年頃からになります。内科医師が発起人となり糖尿病療養指導グループとして発足しました。一昨年グループ活動をもっとグローバルにしようということで生活習慣病療養指導グループと改名して、現在内科医師2名を含む17名で活動しています。NST や ICT よりも歴史は古いんです。

Q：そうなんです。では、佐渡さん自身、どうしてこのグループに参加しようと思われましたか？

A：私自身としては、検査技師は検査データを正確に報告することだけが仕事と考えがちだったのですが、チーム医療に参加し垣根なく他部署のスタッフと交じり合い、患者様を治療・指導する上で検査データが情報としてどのように活かされているのか知りたいと思ったのと、検査情報の助言ができると思い、参加しました。

Q：佐渡さんを含め、このグループの構成メンバーはどのような職種がかかわっていますか？

A：医師を中心として看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士です。このうち、日本糖尿病療養指導士認定機構認定の糖尿病療養指導士が8名います。また、地域医療連携室のスタッフがチームを組み活動しています。

Q：現在、どのような活動をされていますか？

A：糖尿病学習入院、外来糖尿病教室およびIHI職員対象の生活習慣病改善教室などを受け持っています。

特に今はアンケート調査から受講者の聞きたいと思われたことを提供するきめ細かな外来糖尿病教室（4・7・11月の第4木曜日、午後2時~）を行い、毎回100名ほどの方に受講していただき、好評を得ています。

今回の11月29日（木）のメインテーマは皮膚科、森田副院長の

『足を見る習慣をつけましょう』という講演で足病変について分かりやすくお話いただきました。

今回の受講者は97名で、そのうち10名の方が先生の講演を聞いて気になったからと翌日に



糖尿病教室(11/29)

皮膚科受診されたとのことでした。先生の話術の妙技もさることながら教室が受講者自身の身体に気をつける習慣づけの手助けになっていることが証明されグループの励みにもなりました。

Q：そうですね。糖尿病教室は毎回たくさんの方に参加していただき、好評ですね。

そんな活気あふれるグループですが、活動していて苦労していることは何かありますか？



A： 外来糖尿病教室は現在、毎回成功していますが8割以上が複数回受講されている方です。話題に飽きが来ることが無いように演題を考えています。ただ題材については最高級のもので沢山あるのですが、世の奥様が毎日の献立をいかに家族に喜んでもらおうかと考えるように、グループでも毎回の演題に頭を悩ませています。受講者あつての教室ですのでスタッフに話題提供をお願いしているところです。

なお、教室では毎回食事に関するお話もしています。これは受講される皆様が食材ひとつについても敏感だからです。『これ何kcal』『糖分何g』『どの材料の組み合わせがよいの』など…現在、教室でお見せするのは写真やスライドしかありません。実際にフードモデル（実物と同じような肉・魚・野菜の食材模型）を使い、いろいろ盛り付けて視覚に訴えるのが脳裏に残り印象的ですがなかなかよいものが手に入りません。

それから、当院では2週間コースと3日間コースの糖尿病学習入院を行っています。医師だけでなく各医療スタッフに専門教育を受けた日本糖尿病療養指導士がおり、治療・指導・検査なども充実しています。この入院で症状のない初期の合併症が早期発見されることもあります。

少しでも患者様のお役に立ちたいとスタッフ一同頑張っていますので、皆様にこれをもっと知ってもらいたいと思います。

Q：患者様、受講者の方のためにと考えていくといろいろと検討事項が出てきますね。

では、今後の抱負について教えてくださいませんか？

A：そうですね。グループの活動を病院業務の一環として定着させるにはもっと認知度を高める必要がありますが、なにぶん、今はグループの糖尿病療養指導士などが指導したからと言って一部を除き診療報酬にならないのが現状です。

しかし、グループ全員は各職種の専門知識以外に、糖尿病やメタボリックシンドロームなどの知識は他を凌駕し患者様にも納得していただける指導ができます。これを付加価値と考え患者様に安心した治療を受けていただくことにもつながっていると思います。

ゆっくり花びらを開き、しばまないよう若手スタッフを育成しグループで頑張りますので、今後も温かい目で見守ってください。



生活習慣病療養指導グループの勢いに負けないように私たちT・TAKも頑張らなければ！と改めて思いました。ありがとうございました。

生活習慣病は万病の元！

食習慣や運動不足、喫煙などが強く関与していると言われていました。
他人事ではないと医療従事者自身が感じておくことも大切かもしれません。

年末年始、美味しいものがいっぱいでそんなこと忘れそうですが…

頭の片隅にでも置いておきましょう〜！！

次回のT・TAK新聞も…

院内で活躍中の人またはグループを紹介していきたいと思えます！

お・た・の・し・み・に！！

Y. Y.

T・TAK新聞のバックナンバーは

播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧になれます。